



発行日：令和8年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆桑谷山の視察

未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトの活動拠点である桑谷山を視察しました。活動拠点としての今後の活用方針や、現状の課題等について説明していただきました。また、視察後に桑谷山の活用方針について意見交換しました。

日時：令和8年2月7日（土） 10:00～12:00

場所：岡崎市 桑谷山

案内：成瀬氏（岡崎市上下水道局経営管理課）

参加者：17名（事務局を含む）



◆フィールドワークの記録

今回のフィールドワークでは、未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトの活動拠点である桑谷山を視察しました。散策しながら、成瀬氏より活動拠点としての今後の活用方針や現状の課題等について説明していただきました。

桑谷山では、森の健康診断を実施する予定であり、調査箇所の予定地について説明していただきました。参加者の方からは、半永久的に観察していくのであれば範囲内の木に全て番号をつけて計測する案や、人工林と天然林による調査方法の違いに注意することなどの意見交換がありました。また、活動拠点として、山道の整備や間伐の実施を予定していることを説明していただきました。

散策の最終地点である展望台では、今後の活用方法について意見交換を行いました。参加者からは、安全面に関する留意事項や、プロジェクトに関心を持ってもらうための方法などが挙げられました。

今回の視察は、未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトの活動拠点である桑谷山を視察し、今後の活用方針について、参加者を交えて協議する貴重な機会となりました。



成瀬氏による桑谷山の説明状況



意見交換の様子

◆話し合いでの主な意見

- シカの食害対策として、カメラ調査やシカ糞などの記録を活用することが有効である。また、山を管理している岡崎市中山間政策課に相談すべきである。
- 森の健康診断の調査箇所がある程度決まっており、半永久的に観察するのであれば、区画を決め、範囲内の木のすべてに番号をつけて計測することで、より正確なデータを収集することが可能となる。
- 水辺に近い木は根が浅いため倒れやすく、間伐の対象として適している。一方、尾根付近の木は比較的強く、倒れにくい傾向がある。
- 間伐作業は、森林組合などの専門家に委託することが望ましい。
- 展望台から見える景色の説明を記載した地図を設置してみてもどうか。
- 未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトのコンセプトを伝えるため、散策道にQRコードを設置し、かざすと解説が表示される学習ポイントを設けることを提案する。
- 森を歩く際はヘルメット着用の義務付けや、人が歩くところの枝の剪定などの安全対策を強化すべきである。
- 散策中に危険を感じる場所があったため、導線の見直しや手摺やロープの設置を推奨する。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

